

## 「居心地が良く、使われる公共空間をつくるために」

### プレイスメイキングから考えるまちづくり(中間とりまとめの更新)

独立行政法人都市再生機構(以下、UR都市機構)は、プレイスメイキングの考えを取り入れた居心地が良く、使われる公共空間をつくる手法を体系的に整理し、まちづくりに活用しております。これまで、広く社会にも知見を共有することを目的とした社内プロジェクトチームによって、公共空間をつくる手法を整理した中間とりまとめを作成・公開してきました。<sup>※1</sup>

今般、プレイスメイキングの進め方における順序・構成を見直し、プレイスメイキングに係るまちづくりの概念・思想の追加などにより、中間とりまとめの内容を更新しましたので、公開いたします。

#### ■ プレイスメイキングとは

UR都市機構が考えるプレイスメイキングは、ひとの欲求やひとの活動から公共空間のあり方を考え、「居心地が良く、使われる公共空間をつくる」手法として定義しています。例えば、誰もが自由に利用できる公園や駅前広場といった公共空間を、ユーザー目線に立って、居心地が良く、使われやすい空間にすることで、他者やまちとの関わりが生まれるような場所を目指すことです。

#### ■ 中間とりまとめの更新について

中間とりまとめは、「まちの改善に向けたプレイスメイキング検討会(座長:渡和由 筑波大学芸術系准教授)」<sup>※2</sup>でいただいた意見を踏まえ、「居心地が良く、使われる公共空間をつくる」ための考え方をとりまとめたものです。

今般、プレイスメイキングの進め方における順序・構成を見直し、プレイスメイキングに係るまちづくりの概念・思想の追加などにより、中間とりまとめの内容を更新しました。

更新点は、以下の通りです。

#### 【中間とりまとめの更新点】

- ◆ プレイスメイキングの進め方において、「プレイスメイキングの目的を共有する」ことの重要性を認識し、初めに「プレイスメイキングの目的を共有する」ことから始められるように順序を見直しました。
- ◆ プレイスメイキングにおける空間のデザインは、「座り場」・「眺め場」・「囲い場」・「陰り場」・「食場」・「灯り場」・「話し場/離し場」・「巡り場」の8つの場要素を組み合わせることで検討します。その中で、特に重要となる「座り場」(座る場所)や「陰り場」(日陰の場所)をつくることを「基本」とし、その他を「応用」として再整理しました。
- ◆ プレイスメイキングの思想に大きく影響を与えたジェイン・ジェイコブスやヤン・ゲールなどプレイスメイキングと関連性が高い人物や、ひとに好かれ続けるまちづくりを目指す、まちづくりの概念・デザイン論であるニューアーバニズム<sup>※3</sup>などのまちづくり概念等について再整理しました。
- ◆ 日本の公共空間の使い方の特徴を歴史や気候、公共空間活用に対する西欧との相違点等から整理し、プレイスメイキングとの関係性を新たに整理しました。

□ 更新した中間とりまとめは、下記 URL から閲覧・ダウンロードしていただけます。

[https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/chukantorimatome\\_kousin.html](https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/chukantorimatome_kousin.html)

※1 UR 都市機構が整理したプレイスメイキングの考え方は、下記URLから閲覧いただけます。

<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/machiindex.html>

※2 「まちの改善に向けたプレイスメイキング検討会」(平成 30 年 3 月～平成 31 年 3 月まで全7回開催)は、下記URLから閲覧いただけます。

[https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/machikaizen\\_kentoukai.html](https://www.ur-net.go.jp/aboutus/action/placemaking/machikaizen_kentoukai.html)

座長: 渡和由 筑波大学芸術系 准教授

委員: 中島直人(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授)、波瀨郁代(株式会社JTB総合研究所 執行役員企画調査部長)、温井達也(株式会社プレイスメイキング研究所 代表取締役)、本木陽一(一般社団法人場所文化フォーラム 専務理事)、中山靖史(UR 都市機構東日本都市再生本部 事業企画部長)  
(所属・役職は平成 31 年 3 月時点)

※3 ニューアーバニズムについては、中間とりまとめ資料の 77 頁をご参照ください。

## ■ 今後の展開について

引き続き、実際の取り組みを通じて得られた成果や課題を踏まえて内容を随時更新し、UR都市機構のプレイスメイキングやまちづくり等に活用していく予定です。

<b>【問合せ先】</b> 本社 広報室 報道担当	(電話)045-650-0887 奥水、田之畑
アセット戦略推進部	(電話)045-650-0492 田中
技術・コスト管理部	(電話)045-650-0651 角田